

# 匠を育み 未来を拓く

TODA MIRAI FOUNDATION  
GUIDEBOOK 2026

表紙イラスト：TODA BUILDING 8F LED ダイナミックビジョン

## 戸田みらい基金の概要

所在地 東京都中央区京橋一丁目7番1号  
(戸田建設株式会社内)

理事長 今井 雅則

事業内容 1.若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業  
2.建設に関する教育振興に係る助成事業  
3.女性建設技能者の就労促進に係る事業  
4.外国人建設技能者の育成と就労の促進に係る事業  
5.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

設立年月日 2016年10月3日

設立者 戸田建設株式会社

お問い合わせ 一般財団法人 戸田みらい基金事務局  
TEL: 03-3564-2711  
E-mail: info@toda-mirai.or.jp  
HP: <https://toda-mirai.or.jp>



TODA MIRAI FOUNDATION GUIDEBOOK Vol. 7

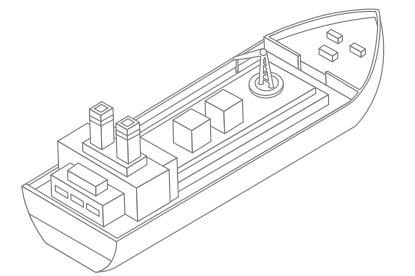
【発行日】 2026年2月10日

【発行】 一般財団法人 戸田みらい基金

©2026 TODA MIRAI FOUNDATION

本書の記事、写真、図版などの無断転載および複製を禁じます。

イラスト提供：株式会社丹青社



一般財団法人 戸田みらい基金

第7回ステップアップ：若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成

継続が一流の心を醸成する！会津ごころで繋ぐ、第4回金堀重機感謝祭

# 職人の本気が人々を魅了する。 地元会津の皆さまへ 感謝の気持ちをカタチに、 全社員で挑むイベントが開催された。

株式会社 金堀重機

2025年4月29日、ゴールデンウィーク中に「金堀重機70年のあゆみ」をテーマとして金堀重機感謝祭2025が開催され、650名を超える人が参加した。

金堀重機は、猪苗代湖の西に位置する福島県会津若松市に本社を置く重機建設会社である。同社は、ロゴに金太郎のマスコットキャラクターを使用していることから分かるように、「気は優しく力持ち」を企業理念として掲げている。本感謝祭は、全社員が一流の重機オペレータへと成長するための登竜門として、「一流の心づくり」を目標に掲げ、地元の方々に楽しんでいただけるイベントとして開催している。



感謝祭当日は、時折小雨がまじる天気にもかかわらず、多くの来場者が詰めかけた。会場内には重機の体験コーナーが数多く設けられ、クレーン車のレバー操作によるフックの上げ下げを体感したり、スーパーデッキに乗って高所へ上がったりと、体験者の表情には笑顔があふれていた。また、フードコートや小さな子ども向けの休憩所を設けるなど、親子連れにも配慮した運営がなされている。中でも特筆すべき企画が「重機のお習字」である。油圧ショベル、ポンプ車、クレーン車の先端に大きな筆を取り付けた3台の重機を使い、5メートル四方のキャンパスに一文字を書き上げる合作が披露された。今年の漢字は「愛」で、重機オペレータの高い技量が試される迫力あるパフォーマンスに、子どもたちは釘付けとなり、職人技の魅力が存分に伝わるイベントとなった。



感謝祭会場



スーパーデッキで会津の街を一望



クレーン車体験



子どもたちによるパフォーマンス



油圧ショベルでの習字



フードコート

「会津ごころで日本を照らす、誇りある故郷を子どもたちへ」を大義に掲げる同社は、一流のオペレータを育成するためには、単なる技術の継承にとどまらず、主体性を発揮できる「心」を養うことが不可欠であると考えている。その考えのもと、感謝祭はイベントの企画から運営までを全社員で担い、社内の上級者から下級者までが一体となって取り組むことで、心を育む人材育成へとつながっている。春田社長は、「感謝祭を通じて会津の子どもたちに自分たちの技術を披露し、感動を届けることで、『一流の心づくり』が自然と醸成される雰囲気をつくることができた」と語る。また、「会津があってこそその金堀重機。参加された会津で生きる皆さまの楽しい思い出となり、地域を愛する原動力になればうれしい」と、地域への想いを述べている。

株式会社 金堀重機

福島県会津若松市町北町大字始字屋敷31番地1  
TEL 0242-32-3111 / FAX 0242-22-4474

<https://kanehori.jp>



第14回：若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成

若年技能者採用・育成活動並びに左官知名度UP活動

第17回 活動報告会参加

# 左官職の魅力を伝える 広島で若年左官工の育成や、 工業高校への出張指導を、 熟練の左官工が技術を伝承する。

広島県左官業協同組合

広島県左官業協同組合は、広島県広島市に拠点を置き、440事業所が所属する組合。

一般社団法人日本左官業組合連合会を上部団体と位置付け、左官工事業の技術的進歩・改善と所属組合員への情報提供と連携強化を目的とし、日々活動を行なっている。

2005年の国勢調査では、全国の左官職人口は10万人を下回った。さらに、2020年の調査ではおおよそ5万9000人まで減少しており、現在もなお減少傾向に歯止めがかからない状況が続いている。

広島県においても例外ではなく、左官職人の減少と人手不足が深刻化している。



若手技能者教育

左官の職人は、一人前になるまでにおおよそ10年かかり、職人の高齢化も進行している。そのため、技術承継を見据えた若年者の採用・育成が、喫緊の課題となっている。こうした状況を受け、広島県左官業協同組合では、若年技能者の採用・育成と左官職の知名度向上をテーマに、さまざまな取り組みを展開している。

若年左官技能者の育成活動としては、1級・2級技能検定の合格を目指す技能者を対象とした講習会を実施しているほか、歴史ある漆喰を現代の住宅などにも選んでいただけるよう、最新の技法・技能を学ぶ「現代漆喰講習会」を開催している。

同組合では、これらの活動を通じて、若い世代の左官技能者が着実に技術を磨き、将来的なキャリアアップへとつながる支援を行っている。



墨壺講習



技能教育



高校生インターンシップ



助成金で購入した新品の墨壺



積算資料

パンフレット

同組合では、若年層の入職促進を目的に、広島県内の工業高校を対象とした左官技能検定3級の指導や出張教育、インターンシップの受け入れを毎年実施している。これまでの継続的な取り組みが評価され、活動期間中に出張指導を行う工業高校は、従来の4校から5校となり、計115名の生徒に対して指導を行うことができた。

また、新たに作成した組合パンフレットには、左官職の概要や仕事の流れ、キャリアアップの仕組みを分かりやすくまとめ、指導時に学生へ配布することで、職業理解の促進を図っている。あわせて、指導先や活動校に対しては、上部団体である(一社)日本左官業組合連合会(日左連)が作成した左官職人募集ポスターや業界紙「日左連誌」を定期的に配布し、継続的な関係構築にも努めている。

このほか、組合員が見積書を作成する際の参考資料として、左官施工標準単価積算資料を作成し、業務支援にも取り組んでいる。

広島県左官業協同組合

〒733-0035 広島市西区南観音6-11-11  
TEL 082-232-0590 / FAX 082-231-9555

<https://www.hiroshimasakan.com>



### 株式会社 SS

第6回若手技能者 ステップアップ助成 職能に対するイメージアップと求人活動の充実に向けた取り組み



インターンシップ



みんなの職場体験



フルハーネス特別教育



学校での足場活用



豊田市イベント参加

愛知県豊田市に本社を置く株式会社SSは、東海地域の愛知・岐阜・三重・静岡4県を営業エリアとして仮設足場全般の請負業を行なっている。

現在、仮設足場の組立て・解体業は慢性的な人材不足に陥っている。その要因として、職能に対する社会的評価の低さに加え、愛知県の地域性から地元の自動車会社および関連企業への就職志向が極めて強いことが挙げられる。

これらの課題を克服するため、同社では職能のイメージ向上を目的に、学校教育活動への積極的な支援を行うとともに、地方自治体などが企画・推奨する事業へ参加している。

また、人材育成および資格取得支援として、小型移動式クレーン技能講習や高所作業車特別教育などの登録教習機関へ講師を派遣するほか、自社で教育センターを設立し、足場やフルハーネスをはじめとする各種資格を取得できる環境を整備した。

これらの取り組みにより、業界全体のイメージ向上を図るとともに、職人が新たに活躍できる場の創出につなげている。

**株式会社 SS**  
 愛知県豊田市白山町二ツ坂23番地3  
<https://www.ss-asiba.co.jp>

### 株式会社 旭都鉄筋工業所

第17回若手技能者 「会社は従業員みんなの会社」を基本として、一人ひとりが主役で一人ひとりが輝く会社を目指す!



技能士練習



技能講習



小学生組立体験



中学生組立体験



中学生溶接体験



スベサー集計ソフト

北海道十川郡に本社を置く株式会社旭都鉄筋工業所は、昭和13年に「市川組」として創業し、以来87年にわたり、鉄筋工事の豊富な経験と実績を積み重ねてきた。現在は、建築・土木工事における鉄筋の積算、加工、組立作業などを手掛けている。

建設業界の慢性的な人材不足を懸念する同社では、学生に対する広報活動や若年層への教育、資格取得支援が重要課題であると捉え活動している。

広報活動としては、小・中・高校生を対象に、鉄筋工事の概要と、実際の工具を使用した組立体験を実施している。また、入社後の社員に対しては、玉掛け、足場組立、フルハーネスなどの技能講習を随時実施し、キャリアアップ支援として鉄筋技能士の資格取得を援助している。さらに、職能創出を目的に図面部門の強化を図るとともに、鉄筋工事の副資材であるスベサーを拾い出すソフトをソフトウェアメーカーと共同開発する等、幅広い人材を受け入れられる体制づくりを進めている。

**株式会社 旭都鉄筋工業所**  
 北海道十川郡東神楽町北1条西4丁目2番23号  
<https://kyokutotekkin.com>

### 平岩塗装 株式会社

第6回若手技能者 ステップアップ助成 塗装業における若手技能者の採用と育成のための取り組み



しずおか建設まつり参加



出前授業



インターンシップ



職業体験



塗装学校への入学支援



出前授業

昭和36年に創業し、東京タワーの塗り替えを50年以上手掛けてきた東京都平岩塗装株式会社は、首都圏の橋梁・高速道路・高層ビルなど特に大型構造物の塗り替え実績を持つ塗装会社である。

近年、建設業界では若手入職者の減少が続ぎ、担い手の確保が急務となっている。こうした中、同社では働き方改革関連法の施行を踏まえ、若手が無理なく働ける環境づくりに取り組んだ。また、ICTを活用した業務効率化や教育の質の向上が重要であると考え、若手社員の育成に注力している。具体的には、塗装学校への入学支援（5年間で22名が入学）や、富士教育訓練センターでの技能講習（5年間で13名が受講）を実施している。また、採用活動および若者への啓発として、中学校への訪問授業や高校生向けのインターンシップ、職場見学を行うほか、地域イベント「しずおか建設まつり」への出展にも取り組んでいる。さらに、ICTを活用し、現場で使用する安全資料をQRコード化することで、iPadやスマートフォンによる情報共有を可能とし、業務効率化と安全性の向上を図っている。

**平岩塗装 株式会社**  
 【本社】東京都大田区千鳥2-9-3  
<https://www.hiraiwa-toso.co.jp>

### ヤマダインフラテクノス 株式会社

第17回若手技能者 ウシワカ・プロジェクト：若手技術者・技能者（ウシワカ）によるインフラ再生の重要性の発信と、ウシワカの育成



広島大学×ウシワカ合同講義



知覧研修



放送番組



放送番組



放送番組



ウシワカ道場

鋼製構造物、橋梁などの塗装修繕工事を手掛ける愛知県のヤマダインフラテクノス株式会社は、塗装の塗り替えを通じてインフラ構造物の長寿命化対策に取り組み、国土強靱化に寄与している。

同社では、橋梁補修・保全を行う企業や、間接的に関わる企業、学校などを中心に、「ウシワカ・プロジェクト」を企画し、その運営母体として任意団体「ウシワカ製作委員会」を立ち上げた。「ウシワカ」とは、橋の上を縦横無尽に駆け回る技能者たちを牛若丸になぞらえて命名したものである。委員会の活動として、現場で働く技術者・技能者が橋梁保全の重要性や仕事のやりがい、将来の目標などを伝えるミニ番組を製作し、地上波で放映している。テレビ放送終了後は、番組をWEB上でアーカイブ配信し、全国に向けて継続的な情報発信を行っている。

また、番組に出演したウシワカたちの育成を目的として、「ウシワカ道場」や「知覧研修」などの研修活動を実施しているほか、広島大学との合同講義にも参加し、次世代の人材育成と橋梁保全意識の向上に取り組んでいる。

**ヤマダインフラテクノス 株式会社**  
 【本社】愛知県東海市名和町二番割中5番地の1  
<https://eco-yamadapeint.co.jp>

# コンクリートに青春をかける！

## コンクリート甲子園

### 緻密な計算と重ねた体験をもとに

## コンクリートに挑む

コンクリート甲子園は建設技術者に必要なコンクリートの基礎的な感覚を身に付けることを目的としている。

学生は材料に触れ、材料の選択や配合設計、練り混ぜを自ら行う。

コンクリート甲子園は2007年に高知工科大学のイベントとして、高校生7チームが参加し、第1回大会が開催された。第4回大会からは四国高等学校土木教育研究会が主催を引き継ぎ、会場も「高知県生コンクリート工業組合技術センター東部試験センター」に移り、第6回大会から昨年の第17回大会までは「香川県生コンクリート工業組合技術試験センター」で開催されてきた。また主催も2015年の第9回大会から全国高等学校土木教育研究会となり、参加校も全国に広がりを見せていることから、今年度第18回大会は、「全国生コンクリート工業組合連合会」の50周年記念事業とも相まって、連合会中央研究所（船橋市）がある首都圏会場となり、12月6日（土）に本選が開催された。

本選が開催された、南船橋の全国生コンクリート工業組合連合会・中央技術研究所

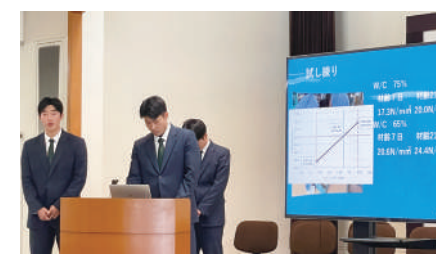
### 全国から多彩な高校が集った本選

コンクリート甲子園は、高等学校および高等専門学校（3年生まで）の学生を対象とした競技大会である。予選では、各校から提出されたコンクリート供試体2本について圧縮強度試験を実施し、その平均値が、今年目標強度である24N/mm<sup>2</sup>±3.0N/mm<sup>2</sup>の範囲内で、どれだけ目標値に近いかを基準に審査が行われる。

本選では、各参加校が工夫を凝らして製作したコンクリート供試体3本を対象に、①コンクリートの強度を評価する「強度部門」、②塗装デザインを評価する「デザイン部門」、③供試体の製作過程を発表する「プレゼンテーション部門」の3部門で審査が行われ、各部門の合計点によって総合優勝校が決定される。

第18回大会には全国から63校が参加し、予選を勝ち抜いた10校が本選に進出した。

本選では、各校に5分間のプレゼンテーションと約10分間の審査員による質問回答が求められる。またその間に供試体3本の圧縮強度試験を行い、目標強度24N/mm<sup>2</sup>に最も近い値が強度部門のポイントとなる。その結果、総合優勝は「徳島科学技術高等学校」、第2位は「仙台工業高等学校」、第3位は「高知工業高等学校」となった。



プレゼンテーション部門 第1位・愛知県立岡崎工業高等学校



デザイン部門 第1位・徳島科学技術高等学校の供試体



プレゼンテーション部門 第2位・仙台市立仙台工業高等学校



デザイン部門 第2位・愛媛県立松山工業高等学校の供試体



プレゼンテーション部門 第3位・北海道札幌工業高等学校



デザイン部門 第3位・愛知県立岡崎工業高等学校の供試体



会場入口



強度検査機器



実行委員会と入賞者の皆さん

### 前回、予選敗退から大逆転の勝利を掴んだ総合優勝の「徳島県立徳島科学技術高等学校」



強度検査結果発表



優勝校によるくす玉割



優勝トロフィー

優勝した徳島科学技術高等学校は、環境に配慮することをコンセプトに、徳島の伝統工芸である藍染めの廃液を練り混ぜ水として100%使用し、粗骨材には再生骨材を用いるコンクリートを製作した。また、最適な配合を導き出すため、大会前に製作した供試体は312本にも及び、多くのバッチを練ることで、目標強度により近づける検証を行った。供試体のデザインコンセプトは「藍コンクリート2025」として、400年以上の歴史を持つ阿波踊りの踊り子をはじめ、鳴門海峡の大鳴門橋と渦潮、眉山を背景に、徳島名産の鳴門金時やすだち、マスコットキャラクター、徳島ラーメンなど、徳島の魅力をふんだんに取り入れたデザインが描かれている。生徒は、「昨年は予選敗退という悔しい結果に終わったが、先輩たちの悔しさをバネに日々努力を重ねてきたことが、今回の優勝につながった」と語った。

コンクリート甲子園 実行委員会事務局

〒668-0023 兵庫県豊岡市加広町6番68号 TEL 0796-22-7177  
<https://www.zennama.or.jp/koushien/>

第7回：建設に関する教育振興に係る助成

伝統伝承を目的としたものづくり教育活動

第17回 活動報告会参加

# 技術伝承を目的とした部活動

## 鹿児島県の伝統校の建築部が、 生徒達で知識・技能を後進へ指導し 伝統を守り続ける。

鹿児島県立 鹿児島工業高校



ものづくりコンテスト練習風景

鹿児島県立鹿児島工業高等学校は、明治41（1908）年に鹿児島郡立工業徒弟学校として設立された。令和7年に創立117年目を迎え、県内で最も古い歴史と伝統ある工業系単科高校である。同校の大きな特徴は、県内で唯一「類系制度」を導入している点にある。1年次に工業全般を学び、2年次から各系の専門分野に分かれて履修することで、幅広い基礎力と専門性の両立を図っている。

また、学校内にある高さ18mのレンガ造りの大煙突は、大正9（1920）年に建てられたもので、文化庁の有形文化財に登録されており、鹿児島工業高等学校のシンボルとなっている。



大煙突



夏休み小学生ものづくり学習会



2級建築大工技能士取得



夏休み小学生ものづくり学習会



鹿児島県ものづくりコンテスト参加

同校の建築部では、ものづくりに関する知識や技術の伝承を目的として部活動を行っている。指導者や教員の力量によって部活動の質や量、内容に差が生じないように、先輩から後輩へと、生徒同士が知識や技術を教え合う指導体制が伝統的に受け継がれている。さらに、同部では活動のゴールを明確に設定し、1・2年次に多様なスキルを身につけることで、3年次に卒業後の進路を主体的に決断できるよう育成設計がなされている。具体的には、1年次に大工技能検定3級・2級および2級建築CAD検定、2年次には2級施工管理技士補や家具技能検定3級の取得を目標としている。こうした取り組みの成果は着実に表れており、専門資格への挑戦も年々活発化している。本年度の卒業生の中には、2年次で2級施工管理技士補を取得した生徒や、1年次で2級大工技能検定に合格した生徒も見られた。早い段階から実力を発揮する生徒が育成されており、日々の学びと指導体制の成果が確かな形となって現れている。



CAD検定練習



設計コンペ入賞作品



先輩が製作した小屋



高校生ものづくりコンテスト参加



高校生ものづくりコンテスト最優秀賞受賞



2級大工原寸図指導

前述した活動に加え、夏休みに小学生の親子と生徒と一緒にものづくりを体験する「夏休み小学校ものづくり学習会」を開催している。このほか、全国の工業高校生が技術や技能を競い合う「高校生ものづくりコンテスト」や「設計コンペ」にも積極的に参加している。こうした校外での活動を通じて、建築部の高い技術力は広く認知されるようになり、本年には他校からベンチ修復の依頼を受けるなど、具体的な成果にもつながっている。

建築部では、3年間の部活動を通じて技術・技能の修練を重ねるとともに、資格試験やコンテストへの挑戦を通して、協同力やコミュニケーション能力、リーダーシップといった社会的スキルを身につけることを目標としている。

鹿児島県立 鹿児島工業高校

〒890-0014 鹿児島県鹿児島市草牟田2丁目57-1 TEL 099-222-9205  
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kagoshima-t/>



### 三重県立四日市中央工業高等学校

第6回 教育

#### レーザー加工機と三重県産木材を使用した 社会福祉施設整備(地域貢献活動)



三重県美杉での林業体験



ベンチ製作



多目的棚製作



施設でのヒアリング



看板設置



麻雀卓の製作~納品

三重県立四日市中央工業高等学校は、昭和37年に設立された歴史と伝統を有する工業高校である。進路指導におけるキャリア教育の功績が評価され、平成24年度には文部科学大臣賞を受賞している。

生徒たちの間には、「高齢者人口が増加する中で、介護や福祉施設の整備は国を挙げて進められている一方、その費用負担は年々重くなっている。少子化も同時に進行する中で、健康で長生きし、充実した人生を送られる社会を実現できないのか」という問題意識があった。

そこで同校では、以前から縁のあった四日市市内の健康サロンの施設整備に取り組むことにした。施設利用者からの要望を踏まえ、地元の林業家と連携しながら、生徒たちが木材を人の役に立つ形へと設計し、加工から取付までを一貫して行った。

こうした活動を通じて、生徒たちは協力し合いながら「人の役に立つものをつくる喜び」を体験し、建設現場で働くための基礎を学ぶ貴重な経験を得ることができた。

三重県立四日市中央工業高等学校  
三重県四日市市菅原町678  
<https://www.mie-c.ed.jp/tcyokk/>

### 大分県立大分工業高等学校

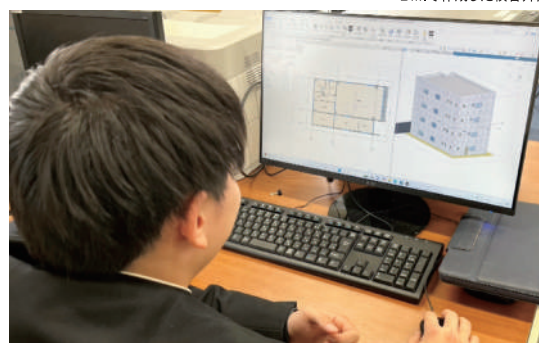
第6回 教育

#### BIMを活用した校舎の建築モデルの作成



外観パース

BIMで作成した校舎外観



BIM基本操作の学習



BIMモデルの活用



BIMモデルの活用



BIM体験



BIM体験

大分県立大分工業高等学校では、建築分野で急速に普及しているBIM\*を高校生の段階から学び、実践する機会を確保したいと考え、福井コンピュータ株式会社の協力のもと、BIMを学習・実践する取り組みを行っている。活動では、BIMソフト「GLOOBE」を使用し、3階建ての建築科棟校舎をモデル化した。外装・内装・外構に加え、家具配置まで詳細に設計するとともに、寸法や構造情報を正確に入力することで、設計情報を一元管理するBIMの特性を体験した。

また、完成したモデルを活用し、校内発表や地域イベント「おおいとくらふとりんく2025」においてプレゼンテーションを実施した。約500名の小学生・中学生・保護者に対し、タブレットやPCを用いたBIM体験を提供し、建築分野におけるデジタル技術の魅力を伝えた。本取り組みを通じて、生徒が最新技術への理解を深め、将来の進路に対して具体的な目標を持つようになったことも、大きな成果である。

(※BIM:Building Information Modeling)

大分県立大分工業高等学校  
大分県大分市芳河原台12番1号  
<https://kou.oita-ed.jp/oitakougyou/>

### 香川県立高松南高等学校

第7回 教育

#### 防災かまどベンチの普及活動



型枠設置



防災かまどベンチ寄贈式



防災かまど完成



コンクリート打設



かまど使用訓練



見学会

香川県は比較的災害が少ない地域とされてきたが、南海トラフ地震の発生確率の高まりや豪雨災害の増加などにより、災害リスクは年々高まっている。

そこで、香川県立高松南高等学校の環境科学科環境土木コースでは、農業土木の知識を生かし、防災構造物の研究を進める中で「防災かまどベンチ」に着目した。

防災かまどベンチは、平常時はベンチとして利用でき、災害時にはかまどとして使用できる設備である。同校では、この設備を高松市内の公園に設置することで、防災意識の向上と普及を目指している。2024年度には高松市仏生山公園に2基を設置し、寄贈式および使用訓練を実施した。2025年度も引き続き2基を施工中であり、かまど部分は耐火レンガで補強され、座面を取り外すことで災害時に炊き出しが可能となっている。

生徒たちは、防災かまどベンチの施工を通して防災に関する知識を深めるとともに、公共の場所における施工の難しさを学び、設計・施工技術の向上につなげている。

香川県立高松南高等学校  
香川県高松市一宮町531番地  
<https://www.kagawa-edu.jp/minamh02/>

### 岐阜県立岐南工業高等学校

第6回 教育

#### 技能検定(3級型枠施工)取得および 技能五輪国際大会(建設コンクリート施工)への挑戦



夏季実技実習



実習風景



実習風景



技能五輪予選会



助成金による資材



技能検定試験-受験

昭和18年「岐阜市立工業高校」として開校した岐阜県立岐南工業高等学校は、校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人材の育成を目標としている。

同校の建築工学科では、技能職に関する教育に力を入れており、型枠分野については技能検定および技能五輪への挑戦を柱とした取り組みを行っている。技能検定においては、外部指導者である型枠の実務従事者を招き、2年生の授業内で全生徒を対象に指導を実施した。全員が実際の検定課題に取り組むことで、より多くの生徒が技能検定の取得を目指す体制を整えている。

今回の助成により、これまで希望者のみであった型枠実習を生徒全員に実施することが可能となった。

また、2026年に開催される「WorldSkills(上海大会)」の予選会に参加し、2位という結果を収めた。惜しくも本選の出場権の獲得には至らなかったが、社会人や大学生が参加する中で大健闘を果たした。

岐阜県立岐南工業高等学校  
岐阜県岐阜市本荘3456-19  
<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/ginan-ths/>



# 第17回 活動報告会

## 建設業界の未来を支える若者を育て、働きやすい環境を整えるために。

**7年間で延べ23団体  
196校の課外活動を支援**

- 建設業の未来に資する、魅力ある取組みの増加
- 課外授業、課題内容の多様化（インフラメンテナンス・ものづくりコンテスト・プログラミング）
- 活動事例の水平展開と情報の共有

2025年9月、戸田みらい基金の助成対象である企業・団体・学校が、若手技能者の採用・育成や教育振興に係る取り組みについて TODA BUILDING 4Fホール Bにて発表を行なった。

戸田みらい基金では、助成対象の企業・団体・学校による活動報告を、毎年2月と9月の年2回実施している。今回の「活動報告会」では、第14回の「若手技能者の採用や育成に資する活動に対する助成」の対象から6団体、第7回「建設に関する教育振興に係る助成」の対象から1校が参加した。



総評 戸田みらい基金 土屋理事

発表者 鹿児島県立鹿児島工業高等学校

総評 厚生労働省 飯田参事官

一般社団法人 福井県建専連 第14回若手技能者 高校生体験会



高校生体験会・鉄筋



高校生体験会・内装



高校生体験会・索

一般社団法人福井県建専連は、福井県内における専門工事業12団体・892社で構成された連合会である。各団体との情報交換をはじめ、県土木部や国土交通省地方整備局、若手技能者との意見交換会などの活動を行っている。

同団体では、業界全体で技能者数の減少や高齢化が進行する中、若者の入職促進と技能継承が喫緊の課題であると捉え、2021年からフクイ建設技術フェアと同時開催で高校生体験会を毎年実施している。

2023年は2日間にわたり、県内の工業系高校6校から2年生181名が参加し、建専連から9団体が体験ブースを出展した。生徒たちは事前に選択した2つの工種について、それぞれ50分間、職人から実際に使用する材料や道具を用いて指導を受けながら、専門工事業の仕事を実践した。本体験会を通じて、学生や引率教員に「ものづくりの楽しさ・難しさ・奥深さ」を体感してもらい、専門工事業の魅力や将来性を効果的に発信することができた。この活動は2025年で5回を数えている。

一般社団法人 福井県建専連  
福井県福井市河増町30-20  
株式会社タツセイ内

一般社団法人 日本発破・破砕協会 第14回若手技能者 登録発破・破砕基幹技能者講習



堤体展望台



タイでの現場研修



登録発破・破砕基幹技能者テキスト



登録発破・破砕基幹技能者講習会



堤体展望台での現場説明



原石山の集合写真

1976年に発足した、一般社団法人日本発破・破砕協会は、発破・破砕を主業とする鷹・土工会社の正会員18社、賛助会員19社、特定会員3社によって構成されている。2021年には、国土交通省より「登録発破・破砕基幹技能者講習」の登録・認定を受けた。

さらに2022年には、CCUS技能者の能力評価基準として「発破・破砕技能者能力評価基準」が同省から認定されている。

同協会では、「登録発破・破砕基幹技能者」の資格を、協会員に限らず協会員以外の技能者も取得できるよう、技能者講習を定期的に開催している。登録基幹技能者講習の合格者は、CCUSゴールドカード取得の要件を満たすことになる。

このほかの活動として、2023年にはダム現場における原石採取発破工事の視察を実施した。あわせて講演会を開催し、最新の機械の紹介や、発破以外の掘削工法について情報提供を行うことで、会員の知識向上を図っている。

一般社団法人 日本発破・破砕協会  
東京都中央区日本橋小網町18-8  
<https://www.happakk.com>

### 株式会社 ミツヤ

第14回若手技能者

①採用・入職促進活動  
②複合工(多能工)育成のための教育訓練



多能工の育成-型枠大工



トレーニングセンター外観



体験型企業説明会



TikTok配信



トレーニングセンターでの技術向上訓練



インターンシップ



Instagramの活用

株式会社ミツヤは、札幌市に拠点を構え、創業28年を迎える内装工事会社である。道内エリアを中心に、軽鉄ボード工事を主軸とした施工を行っている。

同社の三上社長は、「建設業界は、少子高齢化による人材不足、技術伝承の断絶リスク、外注コストの高騰という三つの課題に直面している。特に内装工事分野では下請け依存型モデルの限界が顕在化しつつあり、中小零細企業が持続的に成長していくためには、施工体制の変革が不可欠である」と語る。こうした課題を解消するため、同社では高校を訪問し、体験型授業を毎年実施している。

また、若年求職者に向けた建設業のイメージ向上を目的に、ホームページやSNSを活用した情報発信を行っている。さらに、若手社員の技能向上を図るため、誰でも実際に壁の組み立てや石膏ボード貼りを体験できるトレーニングセンターを設立した。あわせて、閑散期対策として多能工育成を目的に型枠工事への就労にも取り組んでいる。

株式会社 ミツヤ  
札幌市白石区 北郷2条4丁目6番27号  
<https://www.kkmitsuya.jp/WP/>

### 株式会社 野口工務店

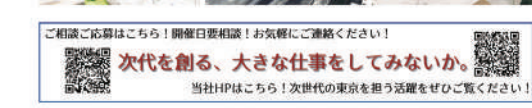
第14回若手技能者

採用・入職促進活動



#### 施工管理セミナー

Q1.施工管理ってどんな仕事?  
Q2.給与明細の見方がわからない!  
会社説明ではなく施工管理の仕事内容や給与明細の見方、使い方を講義致します。課外授業の一環として取り組んでください!



ご相談ご応募はこちら!開催日要相談!お気軽にご連絡ください!  
次代を創る、大きな仕事をしてみないか。  
当社HPはこちら!次世代の東京を担う活躍をぜひご覧ください!

株式会社 野口工務店 03-5621-9990 担当:菊池  
<https://noguchikoumuten.com/> 〒135-0042 東京都江東区木場5-8-40 東京パークサイドビル7F



現場見学



現場見学



インターンシップ



インターンシップ

大正13年に創業し、100年の歴史をもつ東京都江東区に本社を置く株式会社野口工務店は、社会インフラ整備や都市土木工事を手がけている。技術力と人材育成を重視する同社は、新卒者や工業高校生の建設業界離れを抑制するため、教育訓練やインターンシップを通じて、土木建設業界の魅力を発信している。

具体的な活動として、高校生を対象に、将来社会に出た際に直結する「施工管理とはどのような仕事か」「給料明細について」といったテーマを扱う「施工管理セミナー」と題した出前授業を実施している。このほか、高校のクラス単位での現場見学を通じて、現場の基礎知識や業務の流れ、建設業における安全管理の重要性を学ぶ機会を提供している。さらに、インターンシップでは簡単な作業体験やCAD講習を行い、施工管理業務の一端を体験できる内容としている。同社は、「若い世代に建設業の魅力を知らせ、将来を託せる人材を育てていくことが、我々の大切な使命である」と語る。

株式会社 野口工務店  
東京都江東区木場5丁目8番40号 東京パークサイドビル7F  
<https://noguchikoumuten.com>

### 一般社団法人 北陸建設アカデミー

第14回若手技能者

建設業新入社員(3年未満)に対する新人研修



新人研修参加者



マナー講習



測量講習



仮設機材の役割講習



玉掛け技能講習



小型移動式クレーン講習



重機総合実習

一般社団法人北陸建設アカデミーは、新潟労働局登録教習機関として、建設業に必要な技能講習、特別教育、安全衛生教育を実施し、地域建設業界の人材育成を支援している。あわせて、厚生労働省の「建設労働者育成支援事業」や、一般財団法人建設業振興基金における北陸地域の拠点としての活動を通じ、地域に根ざした実践的な教育および就業支援を行っている。

同法人では、高校・大学の新規卒業者から入社3年目までの新人を対象に、「建設業新人研修」を毎年実施している。研修では、まず建設業全体に関する情報提供を行い、続いてビジネスマナーや新社会人として必要な基礎的スキルを習得し、測量や仮設工事などの専門的な研修へ移行する。研修は、A~Eコースまで設けられ、全員参加のAコースを基本とし、B~Dコースについては希望制とし、技能系の各種資格を最大4種類まで取得できる構成としている。さらに最終段階となるEコースでは、取得した資格を活用し、建設現場を想定した重機の総合実習を行うことで、スムーズな入職と建設業界への定着を目指して活動している。

一般社団法人 北陸建設アカデミー  
新潟県胎内市黒川91  
<https://hokuriku.or.jp>

### 堺市立堺高等学校

第7回教育

遊具・棚などの製作、  
保育園・先生との交流を通しての人材育成



園児とのコミュニケーション



製作過程



製作過程



園児とのコミュニケーション



完成遊具

堺市立堺高等学校は、大阪府堺市堺区に所在し、全日制課程として工業系の「機械材料創造科」「建築インテリア創造科」、商業系の「マネジメント創造科」、理数系の「サイエンス創造科」の4学科を有する高等学校である。

同校の建築インテリア創造科では、課題研究の授業において「ものづくり班」として、生徒がグループで協力しながら大型作品を製作する活動を行っている。まず、課題としてグループごとに保育園向けの遊具を考案し、近隣の複数の保育園に対して導入希望の有無を打診する。その中から、予算や製作期間などを考慮して納品先となる保育園を決定する。保育園からの要望を丁寧にヒアリングした後、1/2スケールの模型を用いて、園児と先生に向けたプレゼンテーションを実施し、交流を図りながら遊具の製作を進めた。担当の山岡教諭は、「活動における保育園とのやり取りはすべて生徒主体で行っており、その過程を通じて、コミュニケーション力や調整力が身についた」と語った。

[第18回活動報告会参加予定]

堺市立堺高等学校  
大阪府堺市堺区向陵東町1丁目10番1号  
<https://kyoiku.sakai.ed.jp/sakai-hs/index.html>

本選開催日：2025年11月21日 会場：TODA BUILDING 4F ホールB

第6回：建設業の外国人技能実習生による日本語スピーチコンテスト

# 現場の本音が直接伝わる。 過去最多応募者数117名から 本選に進んだ10名が 日本での仕事のやりがいを熱弁。



2025年11月21日、TODA BUILDING 4FホールBにて  
第6回「日本語スピーチコンテスト」が開催された。

今年は「あなたの今の仕事のやりがいは？」  
～その仕事の楽しいところ、難しいところ、変えたいところ～をテーマに、  
日本での仕事や職場についてそれぞれの思いを語った。

最優秀賞を受賞したカウ・カン・チョウさん



来賓と本選でスピーチを行なった皆さん

### 最優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
カウ・カン・チョウ	(株)竹延	塗装工	24ヶ月	ミャンマー

### 優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
アウン・ソー・モー	ハラスチール(株)	鉄筋工	23ヶ月	ミャンマー
アフマド・ムスタイン・ヤニ	東亜工業(株)	鉄筋工	15ヶ月	インドネシア

### 優良賞

審査結果と受賞者の所属・国籍など

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
リン・ビー・ソン	三幸土木(株)	建設機械工	25ヶ月	ミャンマー
アナンタ・プラセチヨアジ	(株)北川組鉄工所	溶接工	22ヶ月	インドネシア
トリ・モノ	(株)長瀬建設	型枠大工	26ヶ月	インドネシア
アブドゥル・ハリス	(株)ヒココーポレーション	鷹工	25ヶ月	インドネシア
ラマ・ビジャヤ	(株)青木工業	防水工	27ヶ月	ネパール
ムハンマド・エキ・ハリヤント	(株)共栄工業	型枠大工	3ヶ月	インドネシア
グエン・バン・タイン	日起建設(株)	重機オペレータ	54ヶ月	ベトナム

### 最優秀賞

カウ・カン・チョウ  
(株)竹延/大阪府/塗装工/ミャンマー出身

### 人の心を明るくできるような職人へ

ミャンマーから技能実習生として来日し、現在24歳のチョウさんは、大阪府の塗装会社である株式会社竹延に入社して約2年半になる。日本のアニメが好きで日本語に興味を持ち、塗装技術の習得に励みながら学習を続け、昨年には日本語能力試験N2を取得した。スピーチでは、「仕事を初めた頃は怒られたこともありましたが、同じミスをしたくない、分からないことはメモを取り、後で聞いたり調べたりしました。上手くできた時に褒められると本当に嬉しかったです。先輩たちに丁寧に教えてもらったことは、私にとって一生の財産です。ミャンマーに比べると日本はとても平和で安全な国です。日本で仕事ができることはありがたいことです。特定技能者になって、少しでも長く竹延で仕事を続けていき、職人として一人前に成長し、実習生や後輩の指導もできるように会社に貢献していきたいです。そして、自分の手で作った色と技術で人の心を明るくできるような職人になりたいです。」とチョウさんは力を込めて語った。

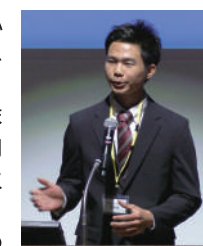


### 優秀賞

アウン・ソー・モー  
ハラスチール(株)/東京都/鉄筋工/ミャンマー出身

### 職場は人生で最も大切なことを教えてくれる学校

2年前に来日したモーさんは、「ある日、私の考え方を根底から変える出来事が起こりました。朝礼の時、工場長は過去2か月間に工場が発生したミスのリストを配りました。そこには合計損害額として100万円という数字が書かれており、中には私のミスも含まれていることに気がきました。他人からの評価ばかりを欲しがった自分の過ちを深く後悔し、自分の仕事は自分に責任がある。私は毎日そう心に刻み込むようにしました。学校が私たちに知識を教える場所であるならば、職場は人生で遭遇する困難や乗り越えるべき壁、そして責任という人生で最も大切なことを教えてくれる実践的な学校なのだ、私は今心からそう思います。」と語った。



### 優秀賞

アフマド・ムスタイン・ヤニ  
東亜工業(株)/北海道/鉄筋工/インドネシア出身

### 一回りも二回りも成長したい

2024年の3月にインドネシアから来日したヤニさんは、「仕事で一番楽しいことは、ほとんど全ての機械を使えるようになったことです。新しい機械に触れると、まるで新しいおもちゃを手に入れたようなワクワク感があります。ボタンを押したり、プログラムを設定したり、自分のスキルが成長していることを実感します。もちろん、忙しい時期や難しい作業が続く時もありますが、それを乗り越えた時の喜びは大きいです。そして、自分が関わった製品が完成し、お客様の元に届くことを想像すると誇りを感じます。自分自身の今の実習制度を最大限に生かして、一回りも二回りも成長し、自信を持って母国に帰れるよう、頑張りたい。」と語った。



一般財団法人戸田みらい基金事務局

東京都中央区京橋1-7-1(戸田建設株式会社内) TEL 03-3564-2711  
E-mail: info@toda-mirai.or.jp

戸田みらい基金の新規助成事業

オンライン教育プログラム

# 「オンライン日本語教育」

## つなく授業

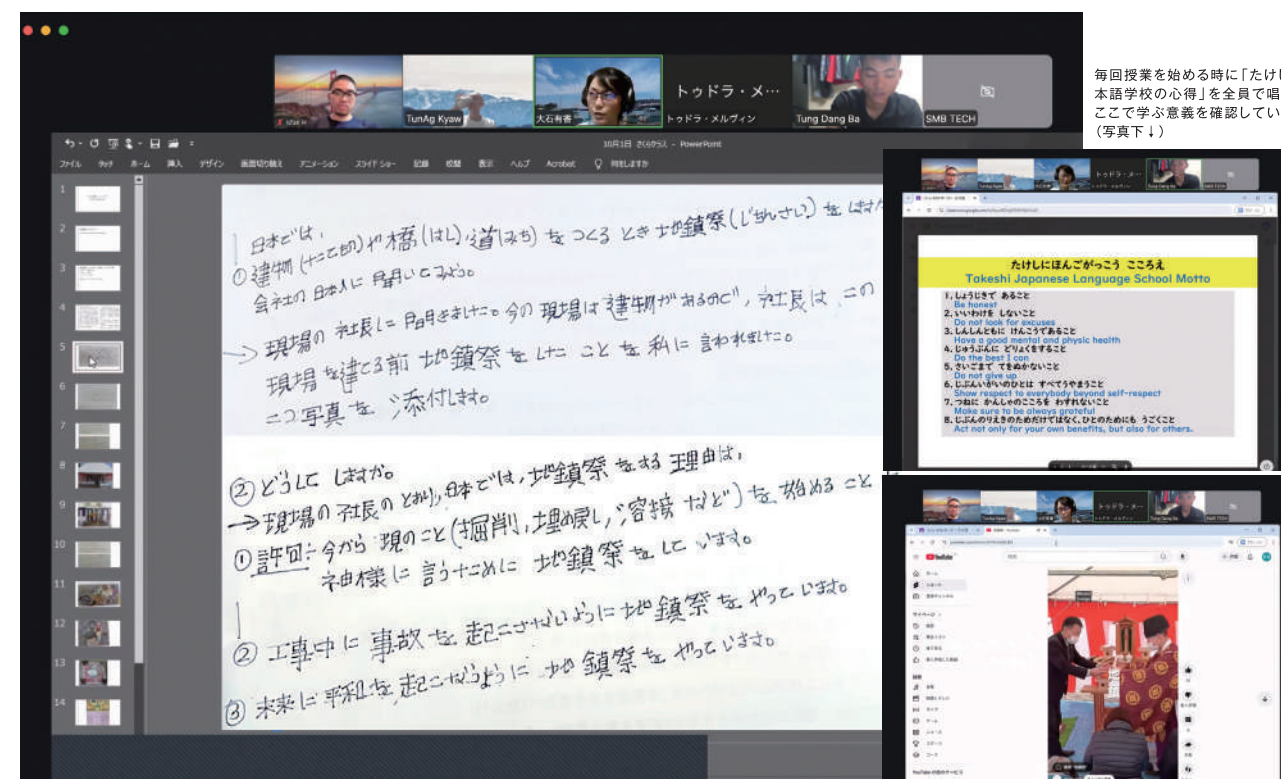
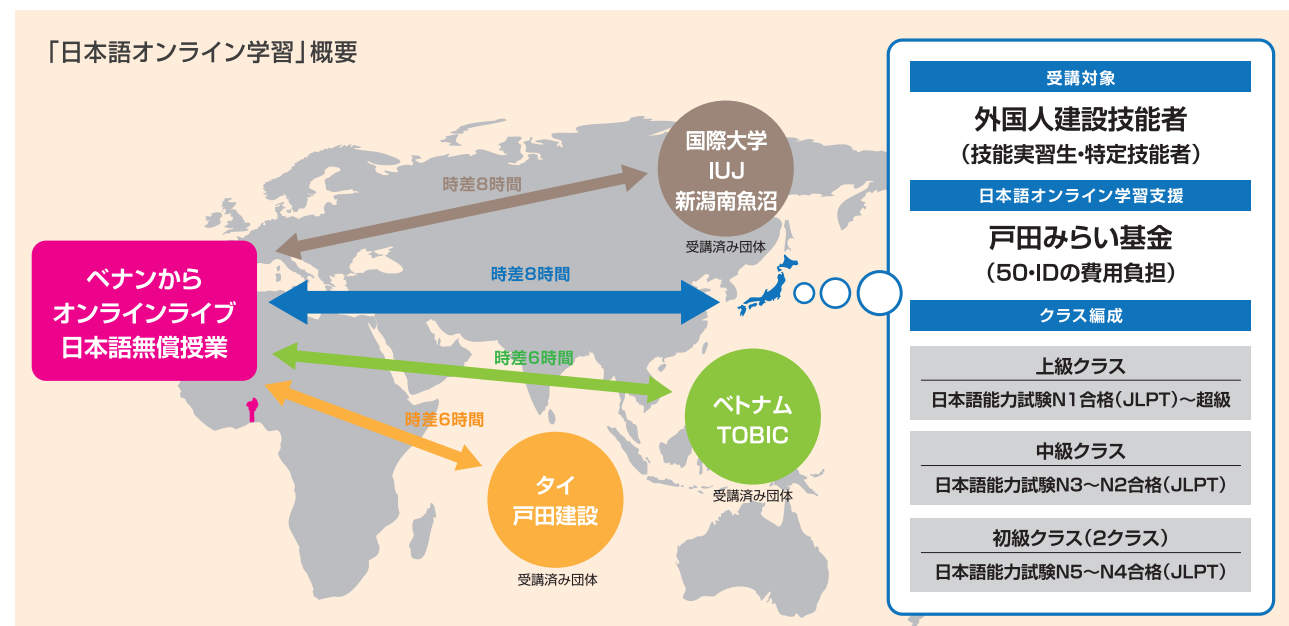
## たけし日本語学校

## 戸田みらい基金クラス開設



西アフリカ・ベナンの「たけし日本語学校」と結ぶ  
オンライン日本語・日本文化のつなく授業

2022年7月から、戸田建設の海外グループ会社や工場などに勤務されている職員や、新潟県の国際大学の留学生にオンライン日本語授業「つなく授業」を開校し、今年で3年目を迎えた。授業は西アフリカ・ベナン共和国で日本語学校を運営してきた「たけし日本語学校」が担当。クラスは受講生の能力に合わせ、初級、中級、上級の3クラスに分かれて、週に1回・2時間の授業を開催している。戸田みらい基金は毎年実施している「スピーチコンテスト」や「外国人建設技能者アンケート」に協力頂いている専門工事会社を通して、外国人建設技能者にオンライン日本語教育授業を2025年から開始した。



オンライン学習画面／毎週宿題が出され日本語で回答し、受講生同士の議論を重ねることで実践的な日本語の習得を行なっている。日本では家を建てる際に地鎮祭を行うが、受講生たちの自国の風習はどうなっているのかを題材として授業が行われている様子。(写真上！)  
地鎮祭とはどのようなものかを動画を見て学習の様子。(写真下！)

授業内容は初級クラスでは、受講生の仕事や生活環境など実態をふまえて、日本語を体系的に学ぶ。中級クラスでは漢字の覚え方のルールを学んだり、上級クラスでは「学問のすゝめ」の読解を行ったりなど、多岐にわたる。日本語授業を通じて、礼儀や働く意義も学び、日本と自国の文化の比較や議論により、日本語能力の向上だけでなく、視野を広げ、人を思いやる心を育むことも重視している。成績評価は出席率等をもとに金賞、銀賞、銅賞の修了証を発行している。今後は、外国人材を求める企業や団体との連携強化や、日本語教育環境へのアクセスが困難な外国人へのサービス拡充を目指している。



たけし日本語学校とは

西アフリカのベナン共和国コヌー市に所在する「たけし日本語学校」は、2003年9月1日に開校した民間の日本語学校である。運営は、特定非営利活動法人IFE(日本)と国際IFE財団(ベナン)の2法人で行い、日本側がカリキュラムの策定、教材作成、日本語教師の派遣、運営費を担い、ベナン側が対面授業を実施している。この学校は、文化交流を通じた相互理解の促進を目的として設立され、経済的・社会的地位を問わず、日本語に情熱を注ぎ、礼節を重んじるすべての人に平等に日本語と日本文化を教授することを理念としている。開校以来、ベナンのみならず、近隣諸国の人々も在籍し、これまでに120名以上が日本の大学に留学した実績がある。さらに2019年からベナンで日本語能力試験(JLPT)の実施を実現し、毎年12月に開催しているほか、2022年には第三回アフリカ日本語教育会議を主催(参加国18か国)するなど、アフリカ全域における日本語教育の発展を牽引している。

一般財団法人戸田みらい基金事務局

東京都中央区京橋1-7-1(戸田建設株式会社内) TEL 03-3564-2711  
E-mail: info@toda-mirai.or.jp

# 戸田みらい基金は、 建設産業の未来を育む 各種事業を展開しています!

世界に誇る、日本の建設産業。  
今、その将来を支える「担い手」の育成が急務です。  
建設産業は他の業界と比べても若年層の減少が大きい傾向にあります。  
そうした中で高齢化した技能労働者が離職することにより、  
技術の継承ができなくなるだけでなく、  
社会資本の品質や機能維持にまで影響を及ぼすことが危惧されています。  
安全・安心な社会基盤を構築し、これを保全していくという建設産業の  
社会的役割を持続的に果たしていくために、「担い手」の安定的な育成が不可欠です。  
「担い手」を育成するというこの大きな課題に対して、  
各種支援事業を通じて貢献することを目的に設立されたのが、戸田みらい基金です。  
本財団の助成事業が、入職者の技術・技能の向上に取り組むことが困難な専門工事事業や、  
建設業で力を発揮していくためにサポートを必要としている  
建設技能者の方々の一助になることを願っています。  
皆様と共に、私たちはこの国の“みらい”を育て参ります。



理事長 今井 雅則

## 助成活動

戸田みらい基金は、建設産業を支える「担い手」の育成を目的として、現在、以下の3つの分野に関わる助成活動を展開しています。この業界の“みらいを拓く”ために、皆様のチャレンジに対して具体的な支援を実行しています。



助成に対する審査

### 若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業 対象: 専門工事事業・団体

若手建設技能者の採用・育成・資格取得に効果的かつ先駆性のある活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、専門工事事業等による創意あふれる取り組みを推奨しています。

第1回	2017年2月	6件	3社・3団体
第2回	2017年5月	5件	4社・1団体
第3回	2018年2月	5件	4社・1団体
第4回	2018年5月	10件	2社・8団体
第5回	2019年2月	7件	5社・2団体
第6回	2019年5月	7件	6社・1団体
第7回	2020年3月	5件	3社・2団体
第8回	2020年5月	11件	5社・6団体
第9回	2021年2月	12件	6社・6団体
第10回	2021年5月	5件	2社・3団体
第11回	2022年3月	7件	6社・1団体
第12回	2022年8月	8件	8団体
第13回	2023年3月	9件	6社・3団体
第14回	2023年8月	21件	8社・13団体
第15回	2024年3月	5件	2社・3団体
第16回	2024年8月	12件	8社・4団体
第17回	2025年2月	7件	6社・1団体
第18回	2025年8月	7件	3社・4団体
累計		149件	79社・70団体

2020年から、「若手建設技能者に対する助成」の対象者に、その取り組みの継続と更なるレベルアップを目的としたステップアップ助成を開始しました。

第1回	2020年3月	6件	4社・2団体
第2回	2021年3月	4件	2社・2団体
第3回	2022年3月	4件	3社・1団体
第4回	2023年3月	1件	1社
第5回	2024年3月	1件	1社
第6回	2025年2月	10件	5社・5団体
第7回	2025年8月	6件	6社
累計		32件	22社・10団体



### 建設に関する教育振興に係る助成事業 対象: 教育関連団体・高校等 (A助成: 団体 / B助成: 高校)

建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2019年5月	A助成: 3団体 B助成: 18校
第2回	2020年5月	B助成: 27校
第3回	2021年5月	A助成: 2団体 B助成: 22校
第4回	2022年5月	A助成: 4団体 B助成: 25校
第5回	2023年5月	A助成: 6団体 B助成: 35校
第6回	2024年5月	A助成: 5団体 B助成: 40校
第7回	2025年5月	A助成: 3団体 B助成: 29校
累計		A助成: 23団体 B助成: 196校

### 外国人建設技能者の育成と就労の促進に係る事業 対象: 専門工事事業・個人

2020年から「建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト」を開催しています。

第1回	2020年12月	予選: 86名 本選: 10名
第2回	2021年11月	予選: 63名 本選: 10名
第3回	2022年12月	予選: 50名 本選: 10名
第4回	2023年12月	予選: 30名 本選: 10名
第5回	2024年11月	予選: 103名 本選: 10名
第6回	2025年11月	予選: 117名 本選: 10名
累計		予選: 449名 本選: 60名

## 活動報告会

戸田みらい基金では、助成対象者が活動内容について報告する「活動報告会」を開催しています。2017年10月の第1回以降、2025年10月の第17回まで、毎年2回実施しています。(活動報告参加数は延べ59社・53団体・7高校)



活動報告会